

寒冷凝集反応		2230000			
		担当部署			
CHA		一般			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→感染症・ウイルス→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		非定型肺炎での陽性率は重症例の 75%~90%、軽症例の 30%程度で、寒冷凝集素価は発病第 1 週の終わりから第 2 週に現れ、2~4 週で最高となり、6 週ごろまでに低下または消失するとされるから、経過を追って抗体価の動きを観察する必要がある。 EX 一般 212 : 「臨床検査法提要改訂第 31 版」			
検査受付時間		8 : 15~16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		該当なし			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1 全血	1 2 茶	なし	10	mL	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		保温 (37℃) 採血後すぐに中央検査部に送る。送るまで人肌程度の湯につけておき、保温できるものに包んで送る。日勤帯 (8 : 45~16 : 00) に限る。 受取後は直ちに 37℃恒温槽に入れる。			
検体受入不可基準		1) 採取容器違いの検体 2) バーコードラベルの貼られていない検体			

	3) 量不足 4) 保温されていない検体 5) 強度溶血検体 6) 強度乳び検体					
保管検体の保存期間	保存不可					
検査結果・報告						
検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部					
測定時間	1～7 日					
生物学的基準範囲	64 倍未満 EX 共通 CL1116 : 「臨床検査法提要改訂第 34 版」					
臨床判断値	該当なし					
基準値					単位	T
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
0	64	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因	特記事項なし					
臨床的意義	寒冷凝集素は自己免疫性溶血性貧血の一病型である寒冷凝集素症 (CAD) に出現する冷式抗体で、通常 IgM 抗体である。 マイコプラズマ肺炎や伝染性単核球症でも寒冷凝集素は認められる。					